

研究テーマ	院内研修における企画力育成・強化モデル有用性の検証 －中小規模病院の研修企画を通して－
研究期間	平成 26 ～ 26 年度
主たる研究者	【学部・学科】看護福祉学部・看護学科 【職・氏名】教授・寺島喜代子
<p>○研究目的</p> <p>平成25年の診療報酬改定によって病床の機能分化が強化され、急性期病院の在院日数が一層短縮化し、地域の一般病床は急性期病院退院後の受け皿として期待される。そして医療依存度の高い患者が地域で生活していくためには急性期病院と地域の病院との連携が重要となる。</p> <p>福井県の病院は300床以下の中小規模の病院の割合が89%と高く、こうした病院が地域の一般病床として地域医療の中核を担うことになる。しかしこれらの病院は慢性的な看護師数不足や中堅看護師のキャリア発達において大規模病院とは違った問題を抱えており、看護管理者は院内研修の企画運営に難しさを感じている。¹⁾そこでわれわれは福井県病院研修機能強化事業（平成22年度～25年度）で、中小規模病院の「研修企画力の育成・強化モデル」（以下、“三重のつながり”）を提案した。本研究の目的はこの“三重のつながり”が他の中小規模病院を対象とした場合でも有用であるかの検証を行うことである。</p> <p>○26年度の概要</p> <p>福井県の二次医療圏（4区分）の病院に「中小規模病院研修機能強化プログラム」として参加する病院を募った。その結果、春江病院、嶋田病院（福井・坂井地区）、福井勝山総合病院（奥越地区）、林病院（丹南地区）、泉が丘病院（嶺南地区）の5病院の参加を得た。そして各病院が研修企画者として6～9名を選出し、本学教員4名を含めて42名が下記研修会に参加し、研修の企画、実施、評価を行った。</p> <p>【第1回合同研修会（8月9日）】看護部長（管理者）を交えて本プログラムの目的と研修を企画するうえでの“三重のつながり”のモデルを紹介し、自病院の研修の問題点と比較する。参加者：26名</p> <p>◎研修会運営の概要：①自病院の研修に関する問題点の抽出と整理、②“三重のつながり”について講義、③自病院の研修の問題点を“三重のつながり”の視点から整理する、④病院発表、⑤学習ニーズと教育ニーズの講義</p> <p>【第2回合同研修会（9月27日）】各病院が計画してきた研修企画について発表し、“三重のつながり”の視点から見直し、研修企画書の作成を学ぶ。参加者：31名</p> <p>◎研修会運営の概要：①各病院が企画した研修の背景や研修内容の繋がりを評価しあう、②“三重のつながり”の視点で自病院の研修企画を見直す、③「研修の企画運営、研修企画書とは」について講義、④講義を聞いたうえで、自病院の研修企画を見直す</p> <p>【第3回合同研修会（10月25日）】各病院の研修企画書を発表し、“三重のつながり”の視点から評価し、研修運営について助言する。参加者：30名</p> <p>◎研修会運営の概要：①各病院の研修企画書の発表と質疑応答、②他病院の発表と質疑応答から自病院の研修企画について見直し発表</p> <p>◎各病院の研修日時の紹介（病院研修は原則公開として、他病院の企画者の参加を促す）</p> <p>※各病院の研修テーマ（概要）と研修日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆春江病院：リーダーに求められる能力⇒講義＋グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ① 「リーダーシップって何?!理想のリーダーを考えよう」(11月20日) ② 「リーダー!help!ありのままの私を見て!来て!聴いて!」(12月4日) 院外参加者；5名 ◆福井勝山総合病院：Fish哲学を活かした職場 ⇒講義＋グループワーク 	

「ピチピチイキイキ活きかえる職場～仕事を楽しむってどういうこと?～」(11月22日)

講師：独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院 市原看護部長

院外参加者：3名

◆林病院：丹南地区中核病院として、退院支援について理解を深める⇒講義＋グループワーク

「みんなが理解しよう「退院支援」」(12月21日)

講師：越前市福祉保健部長寿福祉課長

林病院MSW、林病院ケアマネージャ

院外参加者：8名

◆嶋田病院：脳卒中患者の転入時アセスメント⇒講義＋グループワーク

「私に任せて！脳卒中患者さんの転院時アセスメント」(12月10日)

講師：済生会病院脳卒中リハビリテーション認定看護師

院外参加者：3名

◆泉が丘病院：看護職・介護職役割の相互理解

「まず知ろう！看護・介護 お互いのこと」～よりよいケアへの第一歩～(12月18日)

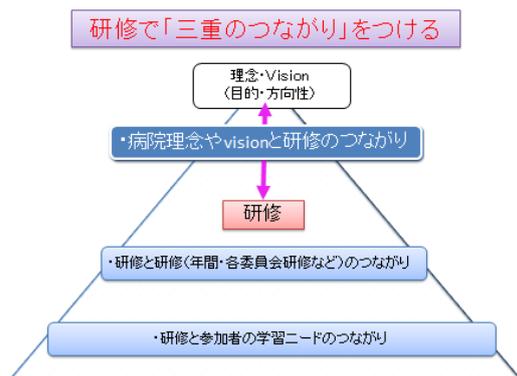
院外参加者：2名

【第4回合同研修会(2月21日・22日)】目的：①26年度に実施した研修の計画立案、実施、評価の過程を振り返り、研修を企画するうえでの気づきや学びを病院間で共有する、②その気づきを活かして、自病院の27年度研修企画の方向性を考えることができる。参加者：35名

◎研修会運営の概要：①各病院が実施した研修の紹介と評価の発表、質疑応答、②“三重のつながり”の視点から26年度研修の評価、③“三重のつながり”を踏まえた27年度研修企画について

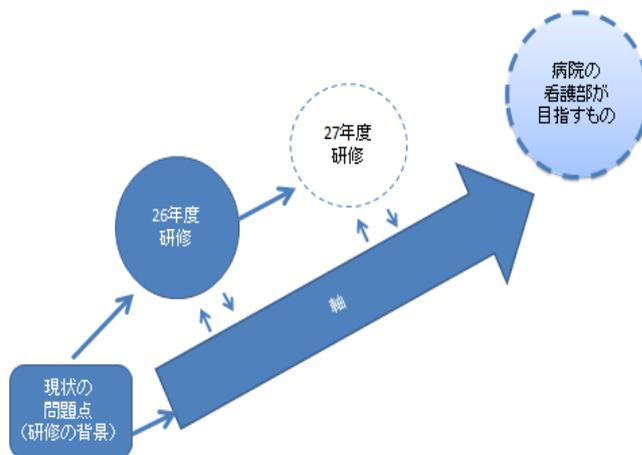
○研究の成果

研修企画の段階で研修参加者の学習ニーズ、自病院が果たすべき病院理念、看護部理念を



意識するために、モデルである“三重のつながり”を研修企画者に講義した。

その結果、企画した研修テーマは、働きぶりとして重要な役割を果たし経験年数としても大多数を占める中堅看護師を対象にした研修が殆どであった。また地域の中で自病院が果たす役割として、急性期病院からの在宅地域や、転院患者が多い病院の特性を踏まえ、老健施設や慢性期病床をもち介護職と看護職の協働を課題とする病院の特徴を踏まえ、リーダーとしての中堅看護師の能力を伸ばすための研修というように、自病院が抱える問題を踏まえた研修内容となっていた。



したがって各病院が実施した26年度研修は学習ニーズと病院理念、看護部理念とのつながりを企画者が意識し“三重のつながり”の有用性は確認できたと考える。しかし26年度の結果を踏まえた27年度研修を考えるうえで、研修と研修のつながりや理念とのつながりを考えるうえで従来のモデルだけでは不十分であると考え、第4回合同研修会のグループワークでは下図を示して、26年度研修と27年度研修につながりを意識できるようにし、現在その結果について分析中である。

1) 赤川晴美・大川洋子・寺島喜代子・吉村洋子；福井県内病院看護部長職等が捉えた看護職者院内教育の現状と課題、福井県立大学論集、第41号、69-85、2013。